

今回は、探究チャレンジ・ジャパン の報告です。

◇ 探究チャレンジ・ジャパンとは？

目的： 高等学校及び特別支援学校高等部の生徒が取り組んだ探究活動の成果を発表・交流する機会を設定し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するとともに、探究活動の成果を新たな探究に結び付け、生涯にわたって能動的に学び続ける資質・能力を育成する（北海道教育委員会による下記概念図参照）。

主催： 北海道教育委員会 国立大学法人北海道大学

協力： 北海道 札幌市 株式会社ニトリホールディングス

期日： 令和6年2月1日(木)

内容： ポスターセッション 口頭発表

会場： 北海道大学 学術交流会館 北海道札幌市北区北8条西5丁目（011-706-2042）
道外から参加予定の高等学校（8会場・オンライン参加）

参加校：

(1) 北海道内の高等学校及び特別支援学校高等部の代表 28校

(2) 北海道外の高等学校 8校

福島県立福島高等学校、東京都立竹早高等学校、神奈川県立横須賀高等学校
岐阜県立関高等学校、京都府立大江高等学校、島根県立松江南高等学校
高知県立大方高等学校、鹿児島県立国分高等学校

◇ 探究チャレンジ・ジャパンと関高校の取り組み

S-T-E-A-M教育推進事業

○ 科学技術の急速な発展により、文理の枠にとらわれず、様々な情報を活用・統合し、課題の発見・解決や社会的価値の創造に結びつける資質・能力の育成が求められている。
○ 北海道・札幌市・北海道大学・株式会社ニトリホールディングスの四者連携協定に基づき、デジタル技術等の活用により地域社会の課題を解決し、みらいの社会を創定できる「みらいIT人材」を育成する必要がある。
○ 令和4年度から探究的な学びを通じて資質・能力を育成する高等学校学習指導要領が年次進行でスタート。

「TEAM北海道」で「Society5.0時代の到来に向け、「School(学校)全体で、「Student(生徒)」の資質・能力を育成し「Sustainable(持続可能)」な社会を構築

「社会との共創」推進プロジェクト

- ◆希望する高校生及び高等部生徒を対象に、実社会の課題解決につながる探究活動を実施し、成果を発表する。
- 【アントレプレナー教育型】
 - 大学や企業と連携し、企業が抱える課題の解決に向けた探究活動に取り組む。
- 【地域課題解決型】
 - 自治体等と連携し、地域が抱える課題の解決に取り組む。
- 【科学技術活用型】
 - 科学技術を活用してセローカーの表現など、実社会における課題の解決につながる課題研究を募集。
- 【グローバル型】
 - SDGsなど国際課題の解決に向けた探究活動に取り組む成果を発表する。

「STEAM」推進プロジェクト

- ◆多様な個性を有する生徒の育成を支える基盤となるプロジェクト。
- 探究学習推進事業**
 - 各教科等で身に付けた見方・考え方を活用して、生徒が主体的に探究に取り組むことができるよう、大学等と連携した授業研究会を通じて、各教科の授業改善を推進。
 - 新設された「理数探究基礎」及び「理数探究」の理解を深め、科目の開設を促進するため、理科・数学の教員を対象にセミナーを開催。【連携：東京学芸大学】
- 外部連携支援事業**
 - 【学校活用型】
 - 各高校における探究的な学びを充実させるため、外部講師を招いての費用を支援する。
 - 【専修連携活用型】
 - 高校生の探究活動の質の向上を図るため、IT・データサイエンスに関する講師の派遣を行う。
- 企画評価検討会議**
 - 大学教授等の外部有識者による企画評価検討会議を開催し、事業の進捗管理や評価を行い、事業を改善。

各学校における成果報告会

- ◆各地域において高校生の探究活動の成果の発表・交流をオンラインで実施。
- ◆各地域の代表生徒等による全道規模の成果発表会を「オンライン」形式で開催。
- ◆四者連携協定の下、高等学校及び特別支援学校高等部生徒が成果を交流。
- ◆各学校の「総合的な探究の時間」の改善・充実を図るため、道立教育研究所と連携した教員研修を実施。

探究チャレンジプロジェクト

- ◆管内発表会「探究チャレンジ〇〇」
- ◆1年目「探究チャレンジ・北海道」
- ◆2年目「探究チャレンジ・ジャパン」
- ◆3年目「探究チャレンジ・アジア」

北海道及び道外の高校・特別支援学校をオンラインで結ぶ探究チャレンジ・ジャパンに参加しました。北海道の会場では、同時開催でポスターセッションも行われました。文科省指導要領の改訂に伴い、探究的な学びが授業改善に取り入れられるようになった結果、「総合的な探究の時間」を軸とした課題解決型研究が、全国各地で盛んに実施されています。

今回、北海道から鹿児島までの複数の学校が一堂に会し、たがいの探究活動の様子をスライドで伝えあい、質問や感想を述べあいました。スーパーサイエンスハイスクールの活動、

生徒の多様な可能性を育み将来の北海道を支える人材の育成
防災教育、地域活性化プロジェクトなど、発表内容も実に多彩で、興味深いものでした。

本校からは、家庭クラブ員の代表が、継続的に行っているSEKI米粉倶楽部（農水省公認）の活動を紹介しました。先輩から継承した継続事業であると同時に、現クラブ員が創意工夫を凝らしてチャレンジしている「子ども食堂」の取り組みに対し、他校の生徒から関心が寄せられました。オンラインによる授業や会議、イベントは、コロナ禍という緊急事態の中で広まりましたが、思わぬ恩恵を私たちに与えてくれています。

遠く離れた全国各地の高校や特別支援学校の仲間たちと、リアルタイムで発表会を行い、意見や質問を述べ合う。コロナ禍以前には、考えられなかったことです。今後もこうした機会があれば、積極的に活用したいと思えます。